

令和 5 年度

# 教育行政執行方針

登別市教育委員会

令和5年第1回登別市議会定例会にあたり、私の教育行政に取り組む基本姿勢並びに所信の一端について申し上げます、市民の皆様、そして、市議会議員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

私が教育長に就任してから3か月が経ちましたが、改めて職責の重さを痛感しながら、日々、職務を遂行しております。

皆様の負託にお応えできるよう、全力で教育行政の推進に努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、今後の教育行政の執行にあたって、私の基本的な考え方について申し上げます。

私は、長年にわたって小学校に勤務し、様々な体験や学習活動を通して、登

別の子どもたちとふれあい、共に歩んでまいりました。

この自らの経験を強みとして、未来を担う子どもたちに、一層の成長を促すとともに、将来にわたって持続可能な社会の担い手となることができるよう、実効性のある教育施策を総合的、計画的に推進してまいります。

また、登別ならではの特色ある教育活動を通じて、将来にわたって住みよい、住み続けたいと思える郷土の魅力に触れ、「ふるさと登別」を誇りに思う心を育てまいります。

さて、3年に及ぶ新型コロナウイルス感染症の流行や不安定な国際情勢により、私たちの平穏な日常は脅かされ、これまでの価値観が大きく揺さぶられ

ております。

こうした先行きが不透明で将来の予測が困難な時代において、多様化・複雑化している課題を乗り越え、豊かな人生を切り拓いていくためには、人とのつながりや思いやりを大切にしながら、自らが共生社会の創り手として成長していくことが必要であります。

教育委員会としましては、教育における「不易」と「流行」を見極め、学校・家庭・地域が一体となって、誰一人取り残さない、あらゆる他者を価値のある存在として尊重する質の高い教育の推進に努めてまいります。

以下、令和5年度の重点項目について申し上げます。

はじめに地域とともにある学校づくりについてであります。

本市におきましては、近隣の自治体に先駆けて、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進してまいりました。

令和5年度は、市内全小中学校に学校運営協議会を設置して10年の節目となりますので、これまでの成果と課題を検証し、今後の方向性を明らかにする一年にするとともに、今後も地域の皆様のお力添えをいただきながら、地域と学校の連携・協働体制の構築を推進し、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えてまいります。

次に学校教育についてであります。

確かな学力の向上については、本市の児童生徒の課題となっている算数・数学科の学習支援として、小学校4年生から6年生までを対象に、新たにオンライン演習教材を導入し、学習内容の確実な定着と学力の底上げを図ってまいります。

1人1台端末を活用した学びの充実については、北海道立教育研究所や登別市情報教育推進協議会と連携し、教職員研修を開催するとともに、ICTを積極的かつ効果的に活用した教育環境の整備に努めることにより、児童生徒の情報活用能力の育成に努めてまいります。

英語教育については、外国語専科教員や外国語指導助手を効果的に活用し、学校生活において日常的に英語に親し

む時間を充実させることにより、とりわけ児童生徒の「聞く・話す」能力の向上を図ってまいります。

学校図書館については、中学校の学校司書を増員し、授業支援や読書支援の一層の充実を図るほか、児童生徒が気軽に立ち寄ることができる場所として、学校図書館の環境改善を進めてまいります。

教員の指導力の向上については、引き続き登別市教育実践研究奨励校や登別市教育研究会の活動を支援するとともに、研究成果の還元を工夫・充実してまいります。

また、道教委や各種団体が主催する研修等を積極的に活用し、指導力の一層の向上に努めてまいります。

本年1月に委嘱した登別市教育委員会デジタルフェローの知見を積極的に活用し、教員のニーズに応じた研修を充実させることにより、ICTを活用した指導力の向上を図り、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に努めてまいります。

また、デジタル教科書の本格導入に向けては、引き続き国が進める「学びの保証・充実のための学習者用デジタル教科書実証事業」に参加するとともに、指導者用デジタル教科書などを整備しながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげてまいります。

さらに、道教委の指定を受けた「学校力向上に関する総合実践事業」における成果を生かしながら、学校の働き方

改革を一層推進し、児童生徒に対して効果的で質の高い教育活動が持続的に行われるよう、努めてまいります。

豊かな人間性の育成については、学校行事や学級活動、児童会・生徒会活動を通して、自己肯定感や自己有用感を醸成し、人権を尊重し他者を思いやる教育を展開してまいります。

また、地域を担う人材の育成という観点から、地域資源を生かした体験活動やキャリア教育のさらなる充実に努めるとともに、地域社会に対する理解を深める取組や教育活動の一層の推進に努めてまいります。

いじめ・不登校対策については、引き続き登別市いじめ・不登校等対策会議

での事例研修等を通じて、学校現場に携わる関係者一人ひとりがいじめ・不登校を最重要課題の一つと捉えるとともに、いじめの未然防止や早期発見・早期対応、不登校となった児童生徒に対して個別最適な支援を推進するため、教育支援センター機能の充実に努めてまいります。

また、いじめられていると感じたらすぐに自分の身を守るため、一人で悩まずに誰かに知らせる行動がとれるよう、「SOSの出し方に関する教育」を推進し、体験的な活動を取り入れた授業にも取り組んでまいります。

そのほか、令和3年度から実施している「鬼っ子フォーラム」の開催や「ピンクシャツデー」への参画を継続し、児童生徒がいじめ問題を主体的に考え、

各校の児童会・生徒会活動の成果と課題を共有する機会を設けるなど、引き続き「みんなが通いたくなる学校づくり」の取組を推進してまいります。

健康・体力づくりについては、コロナ禍の影響により、学校における児童生徒の運動機会が減少しており、毎年実施される「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果からも体力の低下が確認できることから、引き続き小学校へのスポーツ指導員の派遣などを通して、体育指導の充実や運動の習慣化を図ってまいります。

また、「ノーゲームデー」や「登別市ケータイ・スマホ3つのルール」の周知徹底、家庭における「早寝早起き朝ごはん」の啓発など、登別市PTA連合会や

登別市校長会等の協力を得ながら、規則正しい生活習慣の定着を粘り強く周知し、健全な心身の育成に努めてまいります。

幼保小中連携については、引き続き登別市幼保小中連携協議会や登別市幼保小実務担当者会議等を通じ、円滑な学校間連携や接続を実現するために、相互参観や教職員・子どもとの交流を継続するとともに、スタートカリキュラムの改善など、発達段階や学びの連続性を踏まえた活動の充実に取り組んでまいります。

また、「中1ギャップ問題未然防止事業」を推進し、その成果を市内小中学校に還元するとともに、「登別市小中一貫教育基本方針」や各中学校区に設定す

る「目指す子ども像」に基づき、小中学校 9 年間を見通した学習指導や生徒指導のさらなる充実に努めてまいります。

特別支援教育については、登別市教育支援委員会などによる教育相談の充実や関係機関との連携により、特別な支援や合理的な配慮を必要とする児童生徒が幼児期から一貫した支援を受けられるよう、支援体制の充実に努めてまいります。

安全対策・安全指導については、学校が実施する避難訓練や一日防災教室などによる防災教育のほか、災害等が発生した場合に児童生徒自らが適切な対応がとれるよう、平時からフェーズフリーの視点を生かした教育活動を推進

してまいります。

また、新型コロナウイルス感染症対策については、国や北海道の通知に準拠して教育委員会が作成している基本対応マニュアル等を常に見直しながら、感染状況を的確に把握し、感染症の拡大防止と歩みを止めない教育活動の両立に努めてまいります。

学校の適正配置については、令和7年4月に予定する、幌別小学校と幌別東小学校の統合に向け、統合後の環境整備に関する取組を進めるほか、小規模化が課題となっている登別中学校に関しては、「地区別検討委員会」における地域の議論なども踏まえ、適正規模確保に向け、引き続き取り組んでまいります。

次に社会教育についてであります。

市民一人ひとりの取組の成果が地域活動へつながり、活動で生まれた交流を通じて新たな地域活動が展開されていく生涯学習社会の実現に向け、各種施策に取り組んでまいります。

文化・スポーツの振興については、人口減少や少子高齢化が進み、関係団体の会員の減少や活動の縮小が進むなど、課題が顕著化していることから、市民の多様な交流を基本に、世代や団体の垣根を越えた地域とともにある文化・スポーツの振興の実現に向けて、関係団体相互の連携の強化と役割の整理に取り組んでまいります。

また、学校部活動の段階的な地域移

行の推進については、引き続き学校関係者等との協議を図りつつ新たな地域クラブを立ち上げ、これを運営する一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団を支援し、市立中学校の生徒が文化芸術やスポーツに継続的に親しむことができる環境づくりを構築してまいります。

さらに、川上公園野球場などのスポーツ施設において、老朽化等により一部利用に支障が生じていることから、これらの解消を図るとともに、市民会館及び市民プールにおいて、照明のLED化を進めてまいります。

ふるさと教育については、学校等での学習やまちづくりなどで幅広く活用されるよう、郷土資料館の歴史資料に

ついて、デジタルアーカイブ化を推進  
します。

また、アイヌ文化の振興については、  
本年、『アイヌ神謡集』の著者であり、  
本市を生誕の地とする知里幸恵の生誕  
120年、そして『アイヌ神謡集』出版  
100年を迎えることから、昨年に引  
き続き、知里幸恵の生涯を描いた一人  
芝居の鑑賞会を学校等で開催いたしま  
す。

さらに、市民や観光客が彼女の生誕  
の地の森を散策できるよう、NPO法  
人知里森舎とともに整備に取り組むほ  
か、観光交流センター「ヌプル」等との  
連携を図るなど、アイヌ文化への理解  
を深め、関心が高まるよう努めてまい  
ります。

青少年の健全育成については、引き続き「家庭教育学級」を開設し、子育てに関する知識や望ましい生活習慣などを学ぶ機会の確保を図るとともに、親子が共に学び、育ち合う家庭教育の充実に努めてまいります。

また、青少年センターを中心に、街頭指導や巡回指導などに取り組みとともに、「こども110番スタディちゃんの家」を活用し、子どもが不審者と遭遇した場合に備える「駆け込み訓練」を実施するなど、学校・家庭・地域と連携し、子どもの非行防止や登下校時の安全確保に努めてまいります。

学校給食については、衛生管理の徹底を図り、安全で安心な給食を提供するとともに、郷土を実感できる食材を

取り入れ、ふるさとへの愛着が深まる  
献立の提供に努めてまいります。

学校給食センターについては、室蘭  
市との協議の結果、令和11年度の供  
用開始を目途に、給食センターの広域  
設置に関し具体的検討を進めることを  
表明しました。

設置場所や設置・運営方式、両市の負  
担のあり方など、事業の概要や方向性  
については、本年末までに正式に示し  
てまいりたいと考えております。

また、学校給食費については、今般の  
食材料費等の高騰から値上げせざるを  
得ない状況ですが、市長部局からの臨  
時的な財政支出を受けて、本年度にお  
いては据え置くこととし、保護者に対  
する間接的な経済的支援を行ってまい  
ります。

図書館については、質の高い魅力ある図書館を目指して、資料の収集整備に努めるとともに、引き続き郷土資料のデジタル化に取り組むほか、子どもの読書環境の整備と施策の推進のため、「第4次登別市子ども読書活動推進計画」を策定いたします。

以上、令和5年度の重点項目について申し上げます。

教育委員会としましては、学校・家庭・地域の連携・協働をさらに進めながら、社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材を育成するとともに、共に学び支え合う社会の実現に向けた教育を推進してまいります。

市民の皆様並びに市議会議員の皆様

のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。